

【中京大学】

人工知能高等研究所の来歴

奥水 大和 ● 中京大学工学部教授、人工知能高等研究所所長

はじめに

中京大学に情報科学部が開設され、その足腰を盤石にするために、翌1991年、人工知能高等研究所(IASAI)が設置された。これは、教育研究現場と産業社会現場を分かちことなく密着させた土壌の上に育みたいと考えたからであった。そしていま、第3期A1ブームが強烈な触媒的インパクトを与えている。このような近況下にある研究所の来歴、活動内容をご紹介します。

(<http://www.iasai.sist.chukyo-u.ac.jp/>)

1 追いかけてきたA1研究の小史

IASAI発足の動機とその後を目指したA1研究の系譜は、「人工知能・ソフトウェアエンスシリーズ市民公開講

座」に招聘した講師陣の学識領域に垣間見ることができるので、ご覧いただきたい。(敬称略)

辻井潤一、中島秀之(2017)、坂村健(2016)、久間和生(2015)、白井克彦(2014) : 吉川弘之(2011) 林南八(2010) : 高畑勲、橋爪誠(2004) : ドナルド・A・ノーマン、リチャード・S・ミューラー(1993)、マーヴィン・ミンスキー、谷川俊太郎、養老猛(1992)、辻三郎、佐伯胖(1991)

人間知能研究を礎にしつつ、産業社会の現場に届く人工知能研究を目指してきたと総括できる。

2 最近のトピックス

話題① 2016年度は発足以来25年であり、創立記念事業を実施した。

写真1は、創設四半世紀記念式典の一コマである。

話題② ロボカップ世界大会2017名古屋世界大会



写真1 人工知能高等研究所創設四半世紀記念式典(2017年2月17日)
学内外から来賓をお迎えして

が盛大に開催された。その歴史は、IASAI設立から時代を遡り第1回ロボカップ（名古屋開催）に源流のあることは特記に値する。

3 市民社会、産業界への接面

話題① IASAIは名古屋市科学館と協定を結び、「最高の科学技術子どもたちに！——大学教授と学ぶものづくり——」を謳い市民社会、産業界への接面の役割を今後とも演じていく所存である。

話題② 市民公開講座開催は重要な市民社会と産業社会との接面を構築する手掛かりだと位置付けている。

話題③ 機関誌「IASAI News」発刊は1997年に始まり、No.40（2017年、写真2）まで毎年2号発刊のペースで刊行してきた。また、IASAI公式HPの維持運営を図っている。



写真2
機関誌「IASAI News」
最新号の表紙（創設者
福村先生の追悼号）

4 人工知能研究推進のための施策と実績

話題① 所員個々人の研究資源を持ち寄って研究活動が

進められており、研究所はその推進を側面から支えるインキュベーターに徹している。

話題② 産学協同研究の振興に力を入れている。

【事例】富士通研究所 DENSO トヨタ自動車
SUBARU 三菱自動車 HONDA カシオ計算機
三菱電機 SANYO SHARP TOYO アイシン精機
トヨタ車体 IHI Panasonic NITTO YKK
セイコーインスツル 花王

話題③ MVRラボ実験環境を整えて、所員に研究・共同研究の実験サイトを提供している。また、機密性の高い産学協同研究のためのレンタル研究室を設置して、協同研究契約の下で貸与を行っている。

大型国庫助成の誘致（IPA助成、CREST助成、サポイン助成、NEDO愛知万博ロボット展示助成）も注力している。

おわりに

人工知能という学術技術は、デカルト以降の物質科学技術に乗るところと、無理に乗せてはならない側面が入り混じっている。よって、近時の深層学習などの触媒的インパクトにも背中を押されながら、浮かれていないAI研究を進めていきたいと念願している。

【実践女子大学】

原点に返り、検証し、いまに生かす

下田歌子研究所が目指すもの

湯浅 茂雄

● 実践女子大学文学部教授、下田歌子研究所長

私立大学は、特色ある創立者の建学の理念を誇りとし、日々の教育を行う高等教育機関である。しかし、このことは建学理念を無批判に受け継ぐことを意味しない。建学の理念の本質を理解した上で、教育内容は常に見直されるべきであり、不断にその時代の実情に合わせた解釈と運用が図られるべきものと考ええる。本研究所の発足も、教育内容の見直しに契機があった。その経緯に触れたい。

本学では、2007年度から2年間を費やして、初年次教育を見直すと同時に、新カリキュラムの立案を行った。その結果、2009年度にスタートした「実践入門セミナー」という授業科目の中の「下田歌子に学ぶ」というプログラムを通して、自校教育を具体化した。また、2011年3月には、学園出版物として、下田歌子の自

伝的漫画本『きらりうたこ』を世に問うた。下田歌子の目指したものを学内外に広く伝えたいという意図によるものであり、本書は現在も自校教育に役立てている。ここに至って、学園創立の原点に返って検証し、下田歌子の目指したものを現在の教育に生かそうとする機運が高まり、2011年度に、広く有志を募ったプロジェクト研究（常設の施設を持たない）を経て、2014年度に常設の研究所として開設された。

研究所の活動は、基本的には「下田歌子研究所規程」中、第2条（事業）に基づくものである。①下田歌子に関する資料の収集・保管とその業績に関する調査・研究②学園の歴史に関する資料の収集・保管と調査・研究③学祖教育、自校教育に関する調査・研究④女子教育のあり方に関する調査・研究⑤下田歌子の業績に関連する機関との連携事業⑥前記各号を踏まえた教育活動および成果の発信である。これまでの主要な活動を具体的に紹介する。

①②に関わる資料収集は、研究所が常設となったことにより、卒業生を中心に寄贈の申し出が飛躍的に増大した。研究所の常設化により、認知度が上がったこと、連

絡が容易になったためと考えられる。

④⑤に関連しては、これまで本学を会場としてシンポジウムを開催し、他大学の学長を含む錚錚たるパネリストの方々による有意義な討論と連携の機会が得られた。また、研究所内外の講師による講演会は①⑥の全ての項目に関わるが、年間2回程度の頻度で切れ間なく開催している。

また、③と⑥の「教育活動」は研究所発足の契機ともなった自校教育に関わる。「実践入門セミナー」の講師を積極的に務めたり、大学祭の展示や講演を催し、あるい



1902年頃の下田歌子

は、学長と共に下田の生誕地を訪ねる旅（学生の自由参加）の講師を務めるなどの活動を行っている。

学内外の所員との研究会も継続的に行っている。特色は、下田歌子の生誕地岐阜県恵那市岩村町をはじめ、その足跡に関係する場所で、できる限り地域の方々にも参加していただいていることである。

最後に、⑥の成果の発信であるが、速報性を重視した「ニューズレター」（年2〜3回）をすでに9号発刊した。紀要に当たる『下田歌子研究所年報 女性と文化』（年1回）も、3号刊行している。さらに、現在では入手困難となっている下田歌子の著作のうち、重要度の高い著作の復刊を行っている。

実践女子学園は、近代女性教育の先駆者の一人である下田歌子によって1899年に創設され、2019年には創立120周年を迎える。学園の新たな時代への教育展開のために、下田歌子研究所は、下田の歴史的研究に加えて、彼女が目指したものを踏まえ、現在・未来において女性が生き生きと活躍できる社会の実現を目指す調査・研究・提言を行うべく、その体制を整備中である。

【甲南大学】

大学で行う親子関係支援

——次世代育成研究拠点形成を目指して

北川 恵 ● 甲南大学文学部教授

1 設立の経緯

甲南大学人間科学研究所は、文部科学省の学術フロンティア推進事業の助成を受けて行われた共同研究事業（1998～2002年度）の研究体制と成果を引き継いで、恒常的に研究を進めるために、2002年11月1日に設立された。その後、同事業2期目（2003～2007年度）および私立大学戦略的基盤形成支援事業（2008～2012年度）の助成を得て、現代人の心の危機と、その実践的解決のためのネットワーク創造を目的とした研究プロジェクトに取り組んできた。

2 親子関係支援活動

本研究所では、実践研究の一つとして親子関係に関する支援を行っている。子育て支援としては、親子の「居場所・交流・情報共有」の役割を果たす「ひろば型」の支援が多くの人に役立つが、子どもとの関係に迷ったり悩んだりする場合は、大学ならではの専門的な支援が貢献し得る。たとえば、発達心理学の研究を通して、幼い頃に養育者との間で安全と安心が得られる関係性（健全なアタッチメント）を育むことの重要性が指摘されており、米国で開発されたThe Circle of Security program（COS）がエビデンスのあるプログラムとして世界乳幼児精神保健領域で注目されている。本研究所では、2009年度から、COSを地域の親子に実践している（通称「親子がホッとつながるグループ」）。また、2012年度にはCOSの簡易版 Circle of Security Parenting program（COSP）の日本語版「安心感の輪」子育てプログラム）を作成し、これも併せて実施している。グループに先駆けて「お父さん・お母さんのための子育て応援講座」を実施し、地域の保護者にアタッチメント

の視点を分かりやすく伝え、グループの参加者を毎年6～8組程度募集する。このプログラムでは、心理教育と行動観察やグループにおける対話を通して、子どもの気持ちに対する理解を深めることと、親自身が「分かっているつもりでもつい繰り返し繰り返してしまふ養育行動」を乗り越えていくことを目指している。参加者からは、「ママ友とは話せないような、しんどい気持ちを話せた」「悩んでいるのは自分だけじゃないと分かって、ホッとした」「子どもを変えることは難しいけど、自分の行動を変えることができるし、それで関係が変わった」といった感想をいだいた。

大学で行う実践研究なので、学部 of 学生や大学院生有志が課外活動として親子関係のアセスメントやグループ中の託児などに参加しており、発達や親子関係について実践的に学ぶ機会にもなっている。また、学生にとっては自らの働くこと・育てることについて考える機会にもなっている。

2016年までに一定の効果検証ができたため、2017年度からは若手の研究員がプログラムの実践を担い、また2018年度からは学生の参加を授業として位置付けて、より恒常的な運営体制へと整備を進めている。

3 これからの研究活動

本学は、2019年4月21日に甲南学園創立100周年を迎えるに当たり、「人物教育の率先」の理念を高いレベルで実践するための「甲南新世紀ビジョン」を策定した。その実践の一つとして、組織横断的に融合した九つのテーマの下、KONANプレミア・プロジェクトを展開している。本研究所も、KONAN Research & Education プロジェクトのサブ・プロジェクトとして、「ひょうご子ども・子育て未来プラン」連携・研究教育プロジェクトに参加している。これは、大学・学園が協定を結んでいる神戸市、東灘区、兵庫県、神戸新聞社などとの連携を強化し、大学における次世代育成研究拠点の形成を目指すプロジェクトである。具体的には、本稿で紹介した親子関係支援活動や、その他の「子ども・子育て実践」において、世代間交流をより促進させていく。また、心理学、芸術学、社会学、経済学、社会保障などを専門とする研究チームが、次世代育成施策について地域性を含めた検討を領域横断的に行う。さらに、これらの研究成果を踏まえた「ライフプラン教育」を、全学対象の共通教育科目（地域開放型）として2019年度に開講する予定である。